

# 内閣総理大臣賞・農林水産大臣賞受賞

～山の恵のお裾分け コミュニタに集って語って挑んで～

のうじくみあいほうじんのうそんしげんかいはつきょうどうたい  
受賞者 **農事組合法人農村資源開発共同体**

いまだてぐんいけだちょう  
(福井県今立郡池田町)

## ■ 地域の沿革と概要

福井県池田町は、福井県南東部に位置し、北は福井市、東は大野市、南は岐阜県、西は越前市と南越前町に接し四方を山に囲まれている。

地形は急峻で、町の総面積 194.65 km<sup>2</sup>の約 91% が山林で占められている。

また、人口減少と高齢化が進んでおり、昭和 35 年頃 8,300 人であった人口は令和 6 年には 2,186 人と 4 分の 1 に減少、高齢化率も令和 5 年には 44.8% と県内で最も高い町となっている。

第 1 図 位置図



## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

池田町の中央を縦断する<sup>あすわがわ</sup>足羽川は岐阜県境<sup>かんむりやま</sup>冠山を源とし<sup>うおみかわ</sup>魚見川、<sup>みずうみがわ</sup>水海川、<sup>へこかわ</sup>部子川が合流し南北に流れており、その川周辺は肥沃な耕地で稲作が盛んに行われている。近隣の越前市、鯖江市、福井市と連絡し、岐阜県<sup>いびがわ</sup>揖斐川町へと通じる国道 417 号線は、豪雪地帯であるにも関わらず、急勾配・急カーブの峠道で岐阜県境の冠山峠付近は冬期交通不能区間となっていたが、令和 5 年に冠山峠道路が開通し、令和 6 年に新板垣トンネルが開通したことにより、それぞれの往来に峠越えする必要がなくなり、揖斐川町までの所要時間は 64 分、越前市までの所要時間は 5 分短縮した。こうした交通アクセスの向上もあって、休日には町内の観光地や農産物直売所が多く観光客でにぎわいを見せている。

第 1 表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	新市町村単位の集団等	
組織の性格	機能的な集団等	
人口等	総人口	2,423人
	総世帯数	948戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数	125経営体
	個人経営体数	108経営体
	団体経営体数 (内、法人経営体数)	17経営体 12経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	19,465ha
	耕地面積	327ha
	田	320ha
	畑	7ha
	耕地率	1.7%
	一経営体当たり耕地面積	2.6ha

注：令和 2 年国勢調査、2020 年農林業センサス

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

池田町では、昭和 50 年代後半からすでに高齢化と過疎化の課題を抱えており、若年層の流出によって農業の担い手が不足する一方で、農家の息子達は農業への関心が低く、その状況に危機感を抱いた兼業農家の若者 9 名によって昭和 59 年に「池田町農協青年部」（以下「JA 青年部」という。）が結成され、農業を軸とした地域おこし活動が開始された。都市住民との交流を通じ、これまで当たり前であった地域の暮らしや文化が地域の宝ものであることに気づき、それを原動力に活動が活発化していった。

JA 青年部としての活動が活発化していくにつれて、本格的に取り組むを行うためにも法人化し、よりどころとなる活動拠点施設を持ちたいとの意向の高まりから、平成 6 年に 20～40 歳代の 23 人が出資し「農事組合法人農村資源開発共同体」（以下「コムニタ」※）を設立した。平成 8 年には念願の活動拠点施設であり宿泊施設でもある「ファームハウス・コムニタ」をオープンし、これまで行っていた農業生産に加えて体験・食事・宿泊事業を開始した。

コムニタの活動メンバー（以下「メンバー」）は、「池田での暮らしを守りたい」「メンバーのやりたいことを実現したい」といった思いを胸に、地域への貢献とメンバーの自己実現を重要視しながら現在まで活動を継続している。

※「コムニタ」：イタリア語で「共同体」を意味し、池田町ではこの呼び名が通称となっているため引用。

### (2) むらづくりの推進体制

コムニタは、地域への貢献とメンバーのやりたいことの実現を軸に、「農業の総合産業化」を目標に掲げ、それまで「生産・生活の場」であった農村を「交流の場」として活用する活動を行っている。メンバーは「事務」「農業」「宿泊・体験」「加工品」「米粉パン」の 5 つの部門に分かれ、農業生産や加工品販売のほか、農業・農村を活かした宿泊・体験・レクリエーション活動を行っている。

コムニタは、行政や町内の関係施設と連携し、農家や移住者を含む町民も広く巻き込んで活動を行っている。具体的には、町内に新たな商業施設が設立した際は運営が軌道に乗るまで支援を行い、町の賑わい創出に貢献したほか、環境保全型農業に積極的に取り組んだことで、町の農業政策を先導し町内農家に影響を与えてきた。また、多様な価値観を認



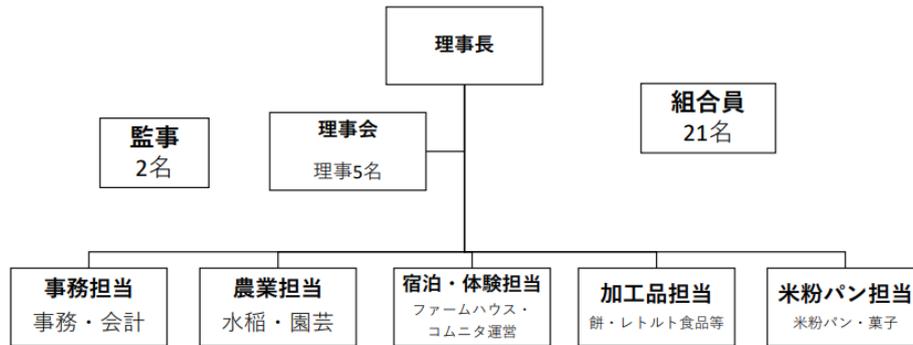
写真 1 都市住民との交流



写真 2 活動拠点施設  
「ファームハウス・コムニタ」

め合うむらづくりを行うために町民と意見交換を行ったほか、町民と協力して池田町を訪問する都市住民の受け入れを行うなど、町民とも広く連携している。さらに、コムニタは移住者に悩み相談や交流のできる場を提供しフォローを行っており、このことは移住者だけでなく町の移住政策にも影響を与えている。

第2図 むらづくり推進体制図



※各業務は、相互に融通しあって担当

## ■ むらづくりの特色と優秀性

### 1. むらづくりの性格

コムニタの特色は「地域資源を活用した幅広い活動」と「波及力」、「収益ではなく団体の理念を重んじる姿勢」にある。

コムニタでは、農業を核に、地域資源を活用した加工品開発や農業体験、観光など幅広い活動を行っており、活動拠点施設は地元住民や移住者、若者の居場所として地域内の交流だけでなく、移住の促進にも役立ってきた。さらに、コムニタの活動は地域内の新たな施設や事業に波及しており、池田町のむらづくりにおいて重要な役割を担ってきたと言える。また、コムニタは収益や団体の拡大にはこだわっておらず、「池田のために」「自分たちのやりたいことをやる」といった団体の理念を重んじて活動しており、その熱意や在り方が結果として地域に良い影響をもたらしたという点も特徴的である。

### 2. 農業生産面における特徴

#### (1) 環境保全型農業を実施

コムニタは計 25ha の農地を管理しており、その内訳は、19ha が水稻、4 ha が牛飼料用の稲(WC S 稲)、1 ha が野菜、8 a がソバ、2 a が施設野菜である。

コムニタは、設立当初から農薬を通常よりも 80%削減した減農薬かつ化学肥料を使用しない農法で米を生産し続け、池田町の自然や人に優しい農業を推進する独自制度「ゆうきげんき正直農業」や「生命に優しい米づくり」を先導してきており、令和 7 年からは、さらなる品質の向上を目的とした「未来へ耕す池田米」にも取り組み、池田町の環境保全型農業の推進に寄与し



写真3 特別栽培米コムニタの  
コシヒカリ

ている。コミュニティで生産されたお米は、人や生き物に優しい「特別栽培米コミュニティのこしひかり」として販売しており、インターネットでの通信販売も行っている。また、野菜も基本的に無農薬で栽培しており、福井県のブランドトマト「越のルビー」やジャガイモなどを生産し、ハッシュドビーフといった加工品のほか、宿で提供する食事に使用している。

コミュニティとして環境に配慮した農法に取り組むほか、町が取り組む生ごみの堆肥化事業にも理事が参加しており、町内での普及にも貢献している。

## (2) 地域農産物を活用した商品開発による地元農産物の普及・伝統の継承

コミュニティは地元農産物を活用した加工品開発に積極的に取り組んでおり、池田町産米を使用したお粥のレトルト、丸餅、かきもち、ばんこもち、米粉パンのほか、豆乳スコーンやハッシュドビーフのレトルトなどを製造・販売している。

加工品の製造は、平成14年に食品営業許可を取得して本格的に開始した。加工品のうち、移住女性の加入をきっかけに製造を開始した米粉100%パンは、はじめ工房がなく近隣施設



写真4 製造を受け継いだ「かきもち」

を借りていたが、売り上げが伸びたため自前のパン工房を建設し、現在はその工房にて製造している。加工品の販売に当たっては、平成16年頃から専門家を招いて商品のパッケージや中身を改良していったほか、町の施設を活用したレトルト加工や加熱調理食品の保存性を高める機器の導入など、製造環境の見直しを積極的に行っている。

こうした試行錯誤・創意工夫を経て生産された加工品は、コミュニティの活動を支える資金源となるだけでなく、池田町の人気商品として地元の農産物の普及やブランド化にも寄与している。また、「かきもち」は、池田町の高齢女性から製造を受け継いだものであり、食文化や伝統の継承にもつながっている。

令和6年には、新たな観光交流施設の開業にあわせ、町産木材を活用したキッチンカーを製作し、コミュニティの米粉100%の米粉パンに池田町の産品を挟んだパニーニ風ホットサンド「米サンド」を販売するなど、地元農産物の普及やブランド化に貢献している。



写真5 「米サンド」

## (3) 農業体験メニューの提供による農業への理解促進と関係人口の創出

コミュニティは設立当初、農業への理解と関心の向上のため、農業農村体験メニューを充実させ、施設において野菜の収穫体験など実施したほか、大学や地元住民と連携して農業や農村に関するイベントを開催するなど積極的に体験活動を実施してきた。こうした活動は、生産の現場を消費者である都市住民や子どもたちが知るきっかけをつくり地域農業の振興に貢献するだけでなく、居住地や世代を超えた交流を創出し、イベント参加者の1人がコミュニティで働くようになるなど、関係人口拡大にも寄与してきた。

現在は、団体客の日帰り体験を町の観光施設に任せ、コミュニティではゆっくりと体験を楽

しんでもらえるよう宿泊客に限定して野菜の収穫とピザづくり体験の提供を行うなど、町の施設と連携し役割を分担して活動している。

#### (4) 新規就農者の増加、担い手の育成

コムニタはこれまで農業体験メニューの提供やイベントの開催によって農業への関心を高めるとともに、安定した農業経営のモデルを示してきた。

こうした活動は新規就農者の確保にも寄与しており、設立 20 年を迎える頃には、県外から新規就農したいと希望者がコムニタを訪問するようになり、これまでに複数人の長期研修生を受け入れてきた。そのほかにも、元池田町の地域おこし協力隊であった 30 代男性を農業・加工品生産の職員として迎えるなど、担い手の育成にも取り組んでいる。

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) 交流の場の提供

活動拠点施設である「ファームハウス・コムニタ」は、メンバーだけでなく、池田町民全体のよりどころ・交流の場となっている。地元の様々な団体や個人は、ことあるごとにファームハウス・コムニタに集まり意見交換を行っているほか、移住や帰郷してくる若者たちが悩みを相談する場にもなっている。コムニタは、声掛けや人間関係を大切にし、移住者ややる気のある若者のやりたいことを応援する活動を行っており、夢をもってやってきた若者の相談に乗りながらともに考え、フォローを行っている。こうした移住者を受け入れる雰囲気や考え方に加え、コムニタのメンバーに移住者が複数人いること、理事が移住サポーターであることなども移住者や若者の相談のしやすさにつながっている。

また、コムニタは移住者に交流や相談の場を提供するだけでなく、職員としても積極的に雇用している。実際にメンバーのうち 4 名は移住者であり、米粉パンの製造を中心に行っている職員も県外から移住してきた女性である。雇用された若い移住者は、リタイヤする高齢者から技術を引き継ぎ、新たな要素を加えた新商品の販売を始めるなど、活動の後継者となっている。

そのほかにも、夏場人手が足りないときは住み込みバイトを募集し、地域を知ってもらうきっかけづくりを行っているほか、コロナ禍を契機に令和 2 年からは仕事と休暇を掛け合わせた「ワーケーション」の取組も開始しており、移住する前に地域に短期滞在できる拠点にもなっている。

コムニタのこうした移住者に対する取組や雇用、交流の場としての施設の提供、イベント開催による多様な人的交流の促進は、池田町への移住の増加や町の活性化に寄与している。

#### (2) 地域内の賑わい創出に貢献

コムニタは町内施設の活動に積極的に参加し、地域内の賑わい創出に貢献している。平成 11 年に農産物直売所「こっぽい屋」ができた際は、商品出荷を依頼されて野菜等を出荷し、平成 24 年に「まちの駅こってコテいけだ」ができた際は、施設を盛り上げるためのマルシェに参加して豆乳ソフトクリームを販売した。また、令和 6 年に新たに町の観光交流施設「道のオアシス フォーシーズンテラス」がオープンした際は、キッチンカーを自

作り、地元の食材・調味料を使用した米サンドを販売した。

このように、コムニタは、町に新たな施設ができた際、設立初期の活動に参加して賑わい創出に寄与し、施設での活動が盛り上がり、参加希望者が増えると、撤退し他の希望者へ場を譲っている。こうした支援のほかにも、コムニタは町の事業に参加し、農村観光協会の役員を担うなど、町全体の支援・土台作りに貢献している。



写真6 キッチンカーの出店

### (3) 農村における女性の活躍を推進

コムニタは、これまでジェンダーに関する意識改革や女性の活躍を推進する取組を積極的に行っており、そうした活動が現在のコムニタにおける女性の活躍につながっている。

平成12年頃、当時30歳代であったコムニタの女性メンバーは、当時の男性を立てる風潮や組織運営・雇用面での男女格差に疑問を抱き、女性の社会参画を推進する活動を開始した。具体的には、女性のためのフォーラムや勉強会を開催し、町内男性も含めて意見交換を行うなど、町全体を巻き込んで意識改革に取り組んできた。

そうした活動の継続によって女性が活躍しやすい環境が醸成され、現在コムニタ内においては女性が活動の中核を担っており、5名の理事のうち2名が女性であるほか、メンバー33名のうち女性は11名と3割以上を占めている。また、宿泊事業やパン製造といった多くの事業に女性メンバーは関わっており、団体の中心的存在として活躍している。

以上のように、コムニタは女性の社会参画を促進する活動に取り組み、女性が活躍できるような体制をつくりあげたほか、町全体を巻き込んで意見交換を行うなど、住みやすいむらづくりに寄与している。